

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年2月25日

事業所名 こどもセンター かおるおか

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・定員に対して基準以上の広い空間があり、感染症対策にも適している。 ・発達段階や特性、目的に応じた生活動作の練習ができる。 ・広さや高さが十分に確保され、雨の日でもこどもが思いきり身体を動かせる「うんどうのへや」や自然を感じられる眺望の良いテラス、落ち着いて活動できる療育教室が適切に設けられている。 ・気持ちが落ち着く海側の部屋、情緒的な配慮が必要なこどもには専用のスペース、自然な支援方法を活かせる情緒が安定するようにスペースを考慮した作りとなっている。 	
	2 職員の配置数は適切であるか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・施設基準を遵守し、必要な配置体制を組んでいる。 ・療育支援を行う職員は、基本の資格者(保育士、児童指導員)に加え、公認心理師、作業療法士、管理栄養士等の資格保持者である。 ・職員間の信頼関係が保たれるように互いが努力し、言葉で表現している。 ・支援上の情報共有は、可能な限り文書で保管、整理し、共通理解を深めている。 ・支援の真の意味を理解して、以心伝心で動く力も日々高め、確認している。 	
	3 療育空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、一人ひとりの特性に応じ、事業所の設備などは、バリアフリー化や情報伝達などへの配慮が適切になされているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・各部屋の方向や順序がこどもたちにわかりやすいように設計されている。 ・豊かな自然に囲まれた立地を活かし、四季の掲示物は実物で表現している。 ・「情報伝達のためのオープンな構造」と「個人情報の管理に適した構造」がある。 ・こどもの成長や変化が見えやすい、アセスメントに適した構造になっている。 ・静かな時間を十分に保つことができる空間を選択することができる。 ・建物や備品の角や素材を点検し、安全面での対応(クッションを貼るなど)を行っている。 	
	4 療育空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こどもたちの活動に合わせた空間(外活動を含む)となっているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・療育中や療育終了後に分担して感染症対策を中心とした清掃をしている。 ・トイレや手洗い場は都度、こまめにチェックし掃除をしている。 ・日々の清掃に加え、定期的に専門業者による清掃を行っている。 ・安全に過ごせるように療育教材の質や量、配置を含めた環境設定を常に行っている。また、危険と思われる箇所は、迅速に処置を行い、こども達の安全を第一に考える体制である。 ・例えば、夏の暑い時でもテラスで園庭同様の活動が行えるなど、開放的な屋内で季節を味わえる空間・環境である。 ・自然の教材が豊富な園庭では、思いきり身体を動かしたり、感覚を感じたり、想像したりして、のびのびと過ごすことができる環境である。また、毎日園庭の整備・清掃を行い、目視にて安全をチェックしている。 ・万一を想定し、園庭の門扉のカギをこども自身で開錠できないようにするため、新たなロックを追加し二重ロックに改善した。 	
	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・複数の研修や会議、ミーティングがある。 ・療育者として、社会人としてのスキルを身につける研修を行っている。 ・法人主催の新人研修があり、外部講師や内部講師を招いている。 ・職員全員に周知徹底させるため、研修内容の資料を回覧している。 	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は目標	
業務改善	6	ご家族向け評価表により、ご家族などに対して事業所の評価を実施するとともに、ご家族等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、ご家族の声を反映して、業務改善につなげる。 ご家族が不安な気持ちを表現できるように、常に話しやすい雰囲気を作り、維持している。 		
	7	事業所向け自己評価表及びご家族向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ご家族への配布を行っている。 情報を毎年更新し、法人のホームページで公開している。 		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○	<ul style="list-style-type: none"> 子ども支援に関わる行政機関や医療機関、大学機関の方などの見学・研修を積極的に受け入れ、研修し、率直な意見・感想をいただいている。 	引き続き、第三者による外部評価について検討する。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> 全国から研修の講師が来られ、資格や専門に関する研修会へ参加している。 自分の資格に関する専門的な研修会に参加し、自ら資質の向上に努めている。 施設に医師などの外部講師を招き、月に1回以上の研修を実施している。 施設内外において多角的な視点からの研修が計画されている。 研修内容を職員が共有できるように回覧またはミーティングなどで情報公開し、スキルアップに努めている。 		
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもとご家族のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> 複数の視点で児童発達支援計画を立てている。 施設見学時の様子や利用開始前の面接時にアセスメントを行い、ご家族のニーズをていねいに聴いた上で児童発達支援計画を作成している。 相談支援専門員の話聞き、計画相談との整合性を保っている。 		
	11	子どもの発達や適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールや客観的な指標（資格保持）があるか	○	<ul style="list-style-type: none"> 標準化された発達検査や心理検査、アセスメントツールを取り入れ、日常の様子や行動と合わせて共通理解している。 		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の後半に児童発達支援計画書の書式を改定し、項目を増やした。 わかりやすく、その子らしさを大切にできる計画書を心がけて作成している。 		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援計画の意味や方法を職員で共通理解する研修を重ねている。 子どもへのかかわり方や声かけを職員間で日々振り返っている。 支援の意味を家族へ言葉で説明することを意識している。 		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○	<ul style="list-style-type: none"> 活動方針から具体的な内容まで、チームで話し合いを重ねて立案している。 		
	15	療育の積み重ねを基盤にしつつ、活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> 子ども自身の選択や決定を大事にした上で、必要な経験が積めるように常に教材や内容を検討し、また子どもの発達や日々の状況に応じて、それらが固定しないよう、教材の扱い方や教材自体を変化させるなど、活動に幅が出るような工夫をしている。 発達段階や状況に合わせて、活動の教室設定や内容を工夫している。 支援者の思いや発想、スキルが活きるプログラムを積極的に取り入れている。 		
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> 子どものアセスメントの結果を分析し、どのような活動（組み合わせ）がより発達段階や状況に合っているかを提案し、最終的には会議を経て作成している。 			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 受け入れ前のミーティングで、支援内容や役割分担を把握・確認する。 ホワイトボードなどで常に視覚的に状況を一目瞭然に理解・確認できる仕組みを採用している。 受け入れ時に子ども及びご家族の体調を確認している。 天候や気温の変化も考慮して、支援内容や役割を確認している。 	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 療育体制に関すること、危機管理に関すること、療育上のごこと、明日のごことなどを毎日振り返り、その都度、必要なことを上司や同僚に相談している。 短時間でも内容の濃いミーティングとなるように内容を精査している。 当日のミーティングに参加していない職員にも、わかりやすいように記録している。 重要事項は直接各自が報告している。 	<ul style="list-style-type: none"> 当日の会議に参加していない職員にもわかりやすいように記録する。 重要事項は直接報告する。
	19	日々の支援に関して重要な部分を記録に残し、支援の検証・改善につなげているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 記録を書き、困ったことはその日に相談している。 記載漏れがないかなどの確認作業をミーティング終了時等に行っている。 	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ガイドラインに基づいてモニタリングを行っている。 随時(定期的に)職員会議を開き、多角的に見直している。 	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にそのこどもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> こどものことを理解し支援している児童発達支援管理責任者やふさわしいと思われる職員が参画している。 	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 保健センターや子育て支援関係者の見学を受け入れ、常に連携している。 こどもが暮らす地域の保健師、市の方々には、こどもたちやご家族の変化を見守っていただき、必要に応じて相談をしている。 	
	23	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 併行通園先の園と平素からコミュニケーションをとるように努めている。 併行通園先の園と情報共有の会議を行っている。 移行支援として、情報提供書などの作成を行っている。 インクルーシブの理念を大切に、それぞれのご家族と相談しながら移行の時期や方法を判断して、安心して地域での暮らしにつなげるよう支援している。 	
	24	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、ご家族とも相互理解を図り、安心して移行できるようにしている。 移行支援として、情報提供書、療育要録の作成、連絡会の準備を行っている。 インクルーシブの理念を大切に、それぞれのご家族と相談しながら移行の時期や方法を判断して、安心して地域での暮らしにつなげるよう支援している。 	
	25	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 講師の方に来ていただき、職員研修をしている。 地域で開催される研修に参加して、研修後に復命研修を行っている。 	
	26	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか		△	<ul style="list-style-type: none"> 職員は、地域の園見学や研修に積極的に参加している。 こどもが暮らす地域の幼稚園や保育園の利用(一時保育含む)を積極的にすすめ、地域の暮らしに移行する準備をしている。 	
	27	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 積極的に参加できる体制を組んでいる。 こどもや子育てに関係する委員や講師を積極的に受けている。 	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> 日々の会話や連絡帳を活用して、暮らし全体の把握に努めている。 登園時や療育中、降園時を通して、日々のこどもたちの様子やかかわり方などを伝え、共に肯定的に理解する努力をしている。 	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は目標
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・初期には、家族通園を行い、能動的に子どもへのかかわり方を学ぶ仕組みがある。 ・感染症対策を優先した上で個別や小グループでの学習を行っている。 ・ご家族の不安や悩みを聴き、よりよい暮らしとなるように面談している。 	
保護者への説明責任等	30	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・入園の際に、施設長や児童発達支援管理責任者等が説明している。 	
	31	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・必ず同意を得ている。 ・安心していただけるように、日々の活動の具体的な場面を通してわかりやすく説明する機会をつくっている。 ・児童発達支援計画を説明しながらご家族と内容を確認し、不安や不満の残らぬよう疑問点や不明な点をその場で聴き、随時加筆修正を行っている。 	
	32	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・園内だけでなく、家庭へ向いて相談を受けることもある。 ・日頃から話していただきやすい雰囲気づくりを心がけている。 ・「事業所内相談」や「家庭連携支援」「電話対応」などを通して傾聴している。 	
	33	家族の会などを開催したり、グループワークを実施するなど、ご家族同士の連携を支援しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族が交流することで、ピアサポート的な関係が生まれている。 ・卒園した子どものご家族が講師をつとめ、家族と交流をもっている。 	・コロナ禍で中止していた諸々の会を要望等に応じて再開させる方向である。
	34	子どもやご家族からの相談や申入れについて対応する体制を整備し、子どもやご家族に周知した上で、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・面接の希望がある場合は、その日に日程調整を行うか、調整に必要な時間の見通しを具体的に示して、不安が軽減するようにしている。 	
	35	定期的に会報などを発行し、活動の概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもやご家族に発信しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・法人が発行している会報に、かおるおかからのメッセージを載せ、毎回ご家族にお渡ししている。 ・行事の日程や外部からの行事催しのお知らせについては、その都度迅速にお便りで知らせている。 ・お便りの渡し漏れがないよう、ダブル・トリプルチェックにて対応している。 	
	36	個人情報の保管場所を定めるなど、個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・個人記録ファイルやUSBなどの個人情報に関する物は、管理担当者を定め保管している。 ・鍵のついている棚で保管している。 ・個人情報を取り扱う際は、一定の場所で行い、取り扱い前後は管理担当者への報告を徹底している。 ・職員には守秘義務を徹底させている。 	
	37	通園している子どもやご家族との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・内容・重要度等を考慮し、面接や電話(通話、ショートメール含む)、連絡帳やお便りなどの幅広い手段で対応するよう配慮している。 	
38	地域の方々との温かく心地よい交流ができ、開かれた事業所運営を図っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々からは開園当初より温かい励ましの言葉をかけていただいている。 ・朝は挨拶を交わし、会話をしながら同じ時間帯に掃除をしている。 ・子どもたちが楽しめるように、季節の花やくだものを届けてくださる。 ・台風などでは、かおるおか周辺の天候を事前に電話で教えてくださる。 ・子どもたちやご家族、職員の安全を地域の方々が見守ってくださる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自治会長、班長をはじめ、近隣の方々がとても温かい。 ・今後も、感謝の気持ちを忘れずにご縁を大切にしていきたい。 	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は目標
非常時などの対応	39	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員やご家族に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・作成しているマニュアルを定期的に確認し、座学とシミュレーションでの職員研修を行っている。 ・AEDを設置し、取り扱いについて研修している。 ・パルスオキシメーターを導入している。 ・法改正に伴う迷いバスの緊急用ボタンについて、使用方法を職員で研修した。 ・各マニュアルについてご家庭でも取り組めるように、それぞれのご家族に合わせて個別に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯マニュアルにそって、訓練を実施したい。 ・新人職員にも周知徹底するための打ち合わせや研修を行う。
	40	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回の「避難訓練実施計画」を立て、毎月避難訓練を実施している。 ・実施後は、訓練の内容や詳細をご家族に書面や連絡帳への記載を通して、わかりやすく説明している。 ・実施後は、参加した職員がアンケートを記入し、訓練を振り返っている（各自の気づきを整理、共通理解することで改善につなげる）。 	
	41	通園開始時に、服薬や予防接種、てんかん発作などのこどもの状況を確認しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・通園開始前に、児童発達支援管理責任者等がこどもの状況を聞きとり、必要書類を提出していただくようになっている。 ・通園開始後は、児童発達支援管理責任者や支援者が日常の様子を確認し、情報を追加している。 ・アレルギー等の既往がある場合は、医療と連携して療育を行っている。 ・ご家族へは、療育に関する医師の意見書の提出をお願いしている。 ・単独で通園するときには、主治医に書面にてご意見をいただいている。 ・一人ひとりの状況に応じた細やかな対応については、ご家族と確認している。 	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・入園前に必要書類に記載していただく。 ・医師の指示書に基づき、給食では離乳食、除去食、代替食等を提供している。 ・給食では、配慮ごとに食器の色を分け、支援方法を示したカードを置くなど、視覚的にも分かりやすいように工夫している。 ・アナフィラキシー症状が懸念されるこどもについては、ご家族の依頼に基づき、療育中はエピペンを所定の場所で保管し、緊急時の対応を医師、ご家族と共通理解している。 	
	43	ヒヤリハット事例集の作成や非常時対応の研修を行い、共有しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・事例報告書を作成している。 ・非常時の対応について、実地研修や講義を受けている。 ・予想を超える様々な事象が起こることもあるので、引き続き、研修を継続する。 ・常に外部および内部での研修を積み、職員全体で情報を共有する。 ・外部（法人）の事例報告も受け、幅広い非常時を想定した対応を再確認している。 	
	44	虐待防止の研修や療育方法に関する研修を常に行い、日々適切な対応をしているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止の研修に参加した上で、全体で復命研修を受けている。 ・こどもだけでなくご家族と一緒にいる療育空間なので、療育のすべてがオープンであり、よい緊張感が常に職員にはある。 ・虐待防止の意識をご家族と一緒に高めている。ご家族もこどものかかわり方を学び、虐待や虐待防止の知識・理解を深めている。 ・チームアプローチの仕組みがある。 ・自分の言動への率直な感想をもらえる（話せる）関係を大事にしている。 ・県や市が主催の研修会講師を引き受け、地域での役割を担っている。 ・理解や関わりで気になることがないかを常に意識する。小さなサインに気づいたときは必ず相談し、チームで対応するようにしている。 	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は目標
45		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得ているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・特に入園初期に行動の激しさが顕著な子どもや情緒的な配慮が極めて必要な子どもへの支援は、ご家族と十分に話し合い、児童発達支援計画にも反映している。 ・クールダウンの必要性や命の安全についての研修を職員に重ねている。 	